



発行
豊中市人権教育推進委員協議会
機関紙編集部会
(豊中市教育委員会事務局社会教育課内)
電話 06-6858-2580
toyonakajinkenkyou@yahoo.co.jp



令和6年度(2024年度)人権作品募集入選作品より

巻頭言

「ビリョク」だけど「ムリョク」じゃない

副会長 古川 博夫

昨年のノーベル平和賞に、核兵器のない世界の実現をめざして尽力し核兵器が二度と使われてはならないことを証言により示したとの功績で、日本の被団協(日本原水爆被害者団体協議会)が受賞しました。

80年前に原子爆弾が広島と長崎に落とされ20数万人の人びとが亡くなり、今もなお、その後遺症に苦しんでいる人が多くおられます。

被爆された人が長い年月とともに亡くなられ、被団協も代表の田中熙巳さんが92歳と高齢で、広島・長崎での被爆体験を世界の人びとに訴え、核兵器の使用禁止、廃止といったメッセージを伝える人びとが年々少なくなりつつあります。



そのようなときに、長崎をはじめとした若い世代の高校生が平和大使として、海外では国連の欧州本部など世界各地で核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴え、国内では高校生の署名活動を展開しています。今後とも継続して活動し、現在の高校生が親となり子どもの世代にも継承していくことを期待しています。このように裾野が広がり受け継がれていくことは、決して微力でもないですし、ましてや決して無力でもありません。

年齢制限のあるボランティア活動はもちろんのこと、“定年”のないボランティアでも団塊の世代が高齢となり引退すれば、その活動は途切れてしまう危険性をはらんでいます。

今から60数年前にアメリカのケネディ大統領が就任演説で述べた“The Torch has been passed to a new generation”の言葉が永遠に続きますように。

令和6年度(2024年度)

「人権教育をすすめる市民の集い」を終えて

意見発表…テーマ：子どもの未来を考える

～デジタル時代を生きる子どもたちへ～

発表者：竹本 和哉さん（少路小学校校長）

記念講演…テーマ：絵本でこどもたちにつたえたいこと

講師：長谷川 義史さん（絵本作家）



■ 記念講演要旨

藤井寺市出身の絵本作家、長谷川義史さん。朗読&ウクレレつき歌あり&筆と墨で描くライブ紙芝居ありと、とてもハートフルな講演でした。

『たこやきのたこさぶろう』

タコが入っていないことがコンプレックスのたこさぶろうは、歯が抜けたばかりのよしおくんと出会う。誰かにとっての欠点は、他の誰かにとっての魅力だったりする。

『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』

5歳の男の子の視点で時を遡っていく。“ひいひいひい”は計算して描かれており、“ひい”ひとつひとつに人権がある。命をつないでいけるような世界でなければ！

『おおにしせんせい』

16号の筆1本で「思っていること、感じたものを紙にのせなさい」と、図画工作という教科をとおして、考えること・生きることを教えてもらった。

■ 意見発表要旨

「子どもの未来を考える～デジタル時代を生きる子どもたちへ～」と題して、少路小学校の竹本和哉校長がデジタル化について、ご自身の子ども時代から現在までの時代変化を自己紹介を交えて発表されました。

SNSの台頭は、情報ソース選択の難しさ、情報の信ぴょう性、情報を見極める力・判断力などそれぞれ難しく、オーストラリアでは16歳未満のSNS禁止の方向で議論が進んでいます。賛否両論ありますが、国レベルで大きく舵を切ったことは、日本においても議論されてもよい課題なのかもしれません。子どもたちには、ソーシャルメディアとのつきあい方をしっかり教えていく必要があると実感しました。教師としての役割は小学1年生から、もっと言うとなん歳前から「デジタルとのつきあい方」をきちんと教えることが求められているのではないかと思います。

『おかあちゃんがつくったる』

おとうちゃんの分までがんばるおかあちゃんは、ミシンでなんでも作ってくれるが、、、父親参観日に自身でつくった背広着用で登場！！

『へびのニョロリンさん』

勝手に屋根裏に住み着いたニョロリンさんと、家主のとめばあさんは、出会った翌朝には朝食をともにする。まさに平和の一冊。

『へいわってすてきだね』

“みんなの笑顔が続いてほしい”1年生の少年の平和を願う詩に精一杯絵を描いた。

『グーチョキパーのうた』をみんなで歌い締めくくり。

会計 林 久美子



子どもたちには二次元だけではなく三次元の世界を大切にしてほしいです。どれだけデジタル化が進行しようとも大切にしてほしいのは①いろいろな人と積極的に関わること②他の人からどんどん刺激を受けること③人のことを思う気持ちを常にもってほしいこと。これが人としての基盤だと考えます。

これを実現するために学校という場が、大きな役割を果たすべきではないでしょうか。と締めくくりました。

十一中校区常任委員 金子 春奈

豊中市人権協は今日まで「市民の人権感覚の育成と、人権が大切にされた市民社会の実現」をめざし、取り組んでまいりましたが、自主的市民団体として、今後、自らの財源確保も大事なことを考え、昨年度にひきつづき「人権教育をすすめる市民の集い」においてご参加の皆様に支援金をお願いいたしましたところ 29,672 円の支援金をお寄せいただきました。皆さまの貴重な支援金は今後の人権協の活動に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

十二中校区 国立民族学博物館を訪れて



今年度、十二中校区では吹田市にある万博記念公園内の「国立民族学博物館」で研修を行いました。

民族学・文化人類学に関する調査・研究に基づいて資料の収集・公開をされています。諸民族についての認識と理解を深めることを目的としたそれらは、私たちの普段の生活においても相通ずるものがあると思いました。

相手のことを知り認めることで、お互いの個性や多様性を尊重し合い、偏見をなくしていく努力をすることが大切だと思えた研修でした。

十二中校区常任委員 加藤 恵美

十四中校区 児童自立支援施設の共に暮らす教育

少年院という言葉を知っていても児童自立支援施設の存在を知っている人は少ないです…と阿武山学園の学園長の話は始まりました。発達特性や大人への不信などで暴力や非行、トラブルを重ねたことで家庭裁判所や児童相談所の判断があり入所してきます。自然に恵まれた広大な敷地に7つの寮と学校や作業農地があり、小舎夫婦制の寮舎では、寮長家族が住込み信頼関係を築きつつ12人の共同生活で生活リズムを整える『育て直し』の取り組みをしています。敷地内分校では、小中学校教諭による学習指導や作業活動を行い、経験や達成感を学んでいます。入所の60%が被虐待児で緊急避難的入所が多いこと、また性加害・性被害の性問題行動や発達障害の疑い児童の入所が増えていることに時代の変化を感じつつ、命だけは落とさないで…と退所後も支援を続けられる信頼関係に頭が下がる思いの研修でした。



十四中校区常任委員 横井 理恵

★ 第二回推進委員研修講座を受けて ★

【テーマ】 性を知って自分を知る

～性教育を教える学校の今とこれから～

【講師】 高須 佳子さん（豊中市立南桜塚小学校 指導養護教諭）

現在の学校教育における性教育・性指導がどのようななされているのか、以前から知りたかったことなので、今回の研修講座は私にとってとても学びの多いものとなりました。

まず驚いたのは、宿泊行事前の保健指導が男女分けずに行われていることでした。かつて私が小学生だったころは、女子児童だけ残り、月経や生理用品の使い方などの指導を受けていたものです。それが今では男女同じ教室で同じ指導を受けている。性教育・性指導において、性別によって「知っておかなければならないこと」に多少の差はあるかもしれませんが、「知っておいた方がよいこと」に差はないと思います。男女一緒に指導を受ける。とても良い取り組みだなと感じました。

また、性被害についてだけでなく、性加害についてのお話もされていると知り、子どもを育

てる保護者として大変ありがたかったです。

日本では、「被害に遭わないために」というのが主流で、「加害者にならないために」という教育は、あまりされてこなかったのでは？と思います。ですが、いつ誰が被害者や加害者になるか分からない。大切な教育だと思います。

私は、学校での教育と同じくらい、家庭での性教育も大切だと感じています。「性」については親子でも話しづらいことはあるかもしれませんが、反対に家族だから、保護者だから伝えられることもあると思います。

これからも学校での教育の力をお借りしつつ、私なりに伝えて行こうと思いました。



二中校区常任委員 矢森 和枝

学校では今

庄内南小学校は、近隣の千成小学校、庄内西小学校、第七中学校と共に、豊中市で2校目となる義務教育学校『庄内よつば学園』に統合されます。令和8年度の開校に向けて、関係4校の教職員は、変化の激しい社会、多様化する社会の中で、これから活躍していく子どもたちにはどんな力が必要なのか、という視点を大切にしながら話し合いを進めており、昨年の8月には、関係4校の教職員が参加する合同人権研修会を実施するなど、義務教育学校9年間の子どもの学びをつなげていっています。その中で、「知る・気づく・つなげる・行動する」を基本に、子どもと子ども、子どもと大人、子どもと地域、子どもと社会を“つなげる”取り組みを進めることで、多様性を認め合い、協働しながら、さまざまな課題を解決しようとする力を育めるのではないかと考えているところです。本校では、毎朝“見守り隊”や保護者の方が登校してくる全ての子どもたちに「お

豊中市立庄内南小学校長 正岡 由佳

はよう」と声をかけてくださり、「あなたがそこにいることをしってるよ」「いつも気にしているよ」という温かいメッセージを伝えていただいています。“今日、〇〇さん、いなかった”と子どもから、地域の方を気遣う言葉がでることもあります。75年の歴史のある庄内南小校区の“よさ”を失うことなく、保護者・地域の方々と学校がつながりながら、子どもたちの毎日をより安心して豊かなものにし、将来、まちづくり、社会を担う子どもたちの活躍につなげていきたいと思っています。



人権作品パネル展



2月13日(木)から19日(水)にかけ「人権作品展」を市役所第二庁舎一階ロビーで開催しました。

市民のみなさんの人権意識の高揚をはかるため、その啓発活動の一環

として今年度募集した人権作品の中から入選した作品を展示しました。今回は絵画 19 点、写真 2 点、作文 3 点、標語 154 点とともに、昨年の「人権教育をすすめる市民の集い」の中で記念講演をいただいた絵本作家の長谷川義史さんの講演の中での「絵」も併せて展示させていただきました。

多くの作品を一点一点時間をかけてじっくり見ていただいたあと「いいね!」と一言。

「孫の作品を見にきたけれど名前がないからどれか

わからん…みんな上手だね、勉強になった」(個人情報保護の観点から学校名だけの表示にしています)

家族連れで来場、自分の作品の前で記念撮影という微笑ましい情景も。

また、人権作品を使用した「人権カレンダー」を毎年楽しみにしています、うれしい言葉もありました。

多くの方の来場をいただき、皆さんそれぞれ何かを感じていただけたのではと願うと同時に、こういった啓発活動を通して、一人ひとりを人として認め合い、共に生きることのできる社会をつくる一助になってくれたらいいなとも願っています。



編集後記

大阪・関西万博が4月13日開幕します。

テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」とサブテーマ「いのちをつなぐ」「いのちを救う」など、未来へつなぐことの大切さを示しています。成功をお祈りします。

最後になりましたが、機関紙「じんけん」168号発行にあたり、ご執筆、ご投稿いただきました皆さまに心よりお礼申しあげます。

書記 清水 千緋

本協議会では、委員の任期は特に定めないが、本会の目的を達成するために、学習活動の期間は10年を一期とし、入会から10年後の年度末に、継続意思確認ハガキを送付してまいりました。この度郵送費の値上げ等の面からこのハガキでの意思確認を行わないことにしました。

退会ご希望の方は本協議会事務局まで、お電話かメールでお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。